港社協 70th ANNIVERSARY since 1953

社会福祉法人　港区社会福祉協議会

創立70周年記念誌

Minato Council of Social Welfare

社会福祉法人 港区社会福祉協議会

〈 法人理念 〉

みんなとともに
「つながり・支えあうまち」をつくるため、
私たちは行動します。

〈 行動指針 〉

港区は、高層マンションや昔ながらの住宅地、地域密着型の商店街や多くの人が訪れる商業地、企業や大使館が多数あるなど、さまざまな地域特性を有しています。
また、子育て世代や一人暮らし高齢者等の人口の増加に伴い、地域における福祉課題も多様化しています。
このような中、誰もが安心していきいきと暮らすことができる地域社会をつくるためには、共助・互助の醸成が重要です。
港区社会福祉協議会は、港区に住み、働き、学ぶみなさんと共に、一人ひとりの自己決定を尊重し、地域の身近な存在として「つながり・支えあうまち」をつくるため、4つの指針を掲げ、行動します。

1. 私たちは、地域の福祉課題を解決するための話し合いや学び合う場をつくり、地域の福祉力を高めます。
2. 私たちは、住民や団体、企業、関係機関と連携・協働し、地域福祉を推進する活動を広げます。
3. 私たちは、地域の実情にあった事業や活動を提案し、積極的に取り組むことで地域福祉の基盤をつくります。
4. 私たちは、共感力・発想力・創造力を豊かにし、一体となって地域福祉の推進に取り組みます。

平成27年10月1日制定

創立70周年を迎えて

社会福祉法人 港区社会福祉協議会は、昭和28年(1953年)10月、麻布十番の港福祉事務所内に区内有志の発起により発足してから、今年で70周年を迎えることができました。

これもひとえに、歴代役員ならびに会員のご尽力に加え、港区をはじめとする行政機関、民生委員・児童委員協議会、町会・自治会、ボランティア団体、企業・NPOなど、多くの方々のご理解とご支援の賜物であり、あらためて心より感謝申し上げます。

この70年の間で、地域福祉を取巻く状況は大きく変化してまいりました。

特に近年では、地域社会や家族構成の変容等により、ひきこもり、孤独死等の社会的孤立の問題、ヤングケアラーやダブルケアの問題、8050問題、子どもの貧困の問題、虐待や詐欺などの権利擁護の問題など、単独の福祉分野では対応が困難な、多様化・複合化し、複雑化する福祉課題がより顕在化してきました。

また、新型コロナウイルス感染症のパンデミックや大規模な自然災害、国際情勢を背景とした急激な物価高騰など、日常生活が脅かされる事態も生じています。

このような福祉課題を解決していくには、人と人、人と地域が普段からつながりをもつことで、身近な地域に住む人が課題を抱えていることに気づき、地域で課題を発見すること、そしてお互いに支えあう意識と活動の輪が広がることが重要です。

港社協は、「多様なつながりと支えあいがあり、誰もが自分らしく安心して暮らすことのできる地域」の実現に向けて、70年間の経験を活かし、地域福祉活動の主体となる区民や様々な団体の皆様、行政や関係機関、企業の方々と連携・協働しながら港社協ならではの事業に取り組んでまいります。

今後とも皆様の温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人
港区社会福祉協議会
会長　**須永　達雄**

港区長

武井　雅昭

創立70周年に寄せて

社会福祉法人 港区社会福祉協議会が創立70周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

港区社会福祉協議会は、昭和28年（1953年）の発足以来、公共性と自主性を持った区民主体の地域福祉推進の中核的な組織として、地域に密着した様々な事業に取り組まれてきました。70年の長きにわたり地域福祉の推進役として活躍を続けてこられましたのは、会長はじめ役員の皆様のご尽力と会員の皆様のご協力の賜物であり、ここに、あらためて敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

近年、地域社会や家族構成の変容等により、福祉に関する法律や制度の改正が進む一方で、一つの制度では支援が困難な課題や複合的な課題を抱える区民への対応など、単独の福祉分野では対応が困難な事例が生じています。区では複雑化・複合化する支援ニーズに対応するため、昨年8月に設置した福祉総合窓口の充実をはじめ、必要な支援が届いていない人に支援を届けるための訪問活動を実施するなど、体制を整備しています。さらに、ひきこもり状態にある人などが、地域社会から孤立することを防ぐための社会参加の支援に取り組むなど、包括的な支援体制を強化し、区民の誰もが住み慣れた地域で安心して生活できる地域共生社会の実現を目指しています。

これらの取組を推進するためには、区と関係機関、企業や地域団体などが連携し、それぞれの役割を果たしながら、力を合わせることが重要です。

港区社会福祉協議会には、区民が支え合う環境づくりの促進や、行政や民間事業者には担えない社会福祉協議会ならではの事業に取り組み、より一層地域福祉の向上に寄与されることを期待しています。

結びに、港区社会福祉協議会のますますのご発展と、須永会長をはじめ関係各位のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げて、お祝いの言葉といたします。

港区議会議長

鈴木　たかや

創立70周年を祝して

港区社会福祉協議会が創立70周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

協議会が設立した昭和28年（1953年）は、戦後復興が軌道に乗り、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法の福祉3法体制により、社会福祉の基盤が徐々に整備されてきた時代でした。

以来、国民の暮らしも大きく変化してきましたが、一方で、時代の変化に取り残され、また困窮する人々にとって、協議会は何より心強い支えとなりました。

設立から70年、急速な少子高齢化の進展により、区民ニーズは多様化、複雑化し、きめ細やかな福祉サービスが求められています。

このような中にあって、福祉活動の拠点として、需要に応じた多彩な事業・サービスを展開される貴会の役割は、さらに高まるものと考えております。

今後も、地域福祉の推進役として、ご尽力、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、港区社会福祉協議会の益々のご発展を祈念いたしましてお祝いのご挨拶とします。

港区民生委員・児童委員協議会会長

田中　泉

創立70周年を祝して

港区社会福祉協議会創立70周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

港社協では全社協のビジョン「ともに生きる豊かな地域社会」の実現に向けて、港区の特性を踏まえた地域福祉の向上を目指し様々な活動をされています。

私たち民生委員・児童委員も港社協の参与として、ともに手を携え地域の皆さまへ必要なサービスをお届けするとともに、行政や関係機関へのつなぎ役としての役割を担わせていただいております。

コロナ禍を経て、以前と同様な活動はなかなか戻らず、オンラインでつながるという、人と人との関係性の変化が急速に進みました。しかも、港区での再開発はコロナ禍でも足踏みすることなく、タワーマンションが建ち並びました。そんな港区にあって、この70周年は「ともに生きる」というあり方を改めて考える機会となるのではないでしょうか。

関東大震災100年の今年、どんなにIT化が進んでも、顔の見える関係があってこその支え合いです。核家族化が進み、子育ての難しさや高齢者の孤立、障がい者の自立の難しさなど課題は数え切れません。この先どんな変化があっても港社協が中心となり、地域を支え人をつなぎ助け合うことの出来る社会を築かれていくことを心から願っております。

港社協70周年のあゆみ

港社協創立当時の
事務局があった
港福祉事務所風景

1953年（昭和28年）

港社協創立
（港福祉事務所内・麻布十番）
（10月17日）

法人発足式

1964年（昭和39年）

社会福祉法人
港区社会福祉協議会認可、
法人登記完了

1965年（昭和40年）

事務局港区本庁舎へ移転

2001年（平成13年）

福祉サービス利用支援センター
「サポートみなと」設置

2002年（平成14年）

ふれあい・いきいきサロン事業開始

2004年（平成16年）

第2次港区地域福祉活動計画策定

2008年（平成20年）

成年後見利用支援センター開設

1953 ― 1960 ― 1970 ― 1980 ― 1990 ― 2000

1976年（昭和51年）

・ボランティアコーナー開設
・東京都ボランティア活動推進
　モデル地区第1号指定

1979年（昭和54年）

事務局が芝公園福祉会館内
へ移転

1988年（昭和63年）

港区ボランティアセン
ター開設、ボランティア
基金設置

1996年（平成8年）

・港区地域福祉活動計画「手をつなぐ
　みなとプラン21」策定
・台場高齢者在宅サービスセンター
　運営受託（平成18年まで）

福祉関係のうごき

- 母子保健法（1965年）
- 障害者基本法（1975年）
- 国際児童年（1979年）
- 介護保険法（2000年）
- ボランティア国際年（2001年）
- 発達障害者支援法（2004年）
- 障害者の権利条約発効（2008年）

マスコットキャラクター「み～しゃ」

2010年（平成22年）
第3次港区地域福祉活動計画策定

2011年（平成23年）
マスコットキャラクター「み～しゃ」誕生

2012年（平成24年）
事務局が港区麻布地区総合支所内へ移転

2015年（平成27年）
法人理念を制定

2016年（平成28年）
・地域福祉活動参加促進講座（パワーアップ塾）を開始
・社会福祉法人の連携による社会貢献事業を開始
・第4次港区地域福祉活動計画策定
・港区地域福祉フォーラムを開催

2017年（平成29年）
生活支援体制整備事業を受託

2018年（平成30年）
法人章を制定

2019年（令和元年）
・港区老人クラブ連合会事務局運営等支援を受託
・法人後見事業を開始

港区地域福祉フォーラムを開催

法人章

2010 ―― 2020 ―― 2023

2020年（令和2年）
・障害者スポーツの振興と地域福祉活動推進事業を開始
・コミュニティソーシャルワーク推進事業を開始
・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた緊急小口資金と総合支援資金特例貸付を開始（令和4年9月まで）

障害者スポーツの振興と地域福祉活動推進事業

2021年（令和3年）
第1次港区社会福祉協議会経営戦略計画策定

2022年（令和4年）
第5次港区地域福祉活動計画策定

2023年（令和5年）
港区子ども食堂ネットワーク運搬支援を開始

マスコットキャラクター「み～しゃ」

- 障害者虐待防止法（2011年）
- 障害者総合支援法（2012年）
- 成年後見制度の利用の促進に関する法律（2016年）
- 障害者差別解消法（2016年）
- 民生委員制度100周年（2017年）
- 成人年齢引き下げ・年金受給開始年齢引き上げ（2022年）

社協会員の声　～会員会費制度～

会員会費制度は、港社協の趣旨に賛同された皆さんからの「会費」によって、社協を財政的に支えていただくものです。港区の地域福祉を推進していくうえで、継続的な支援は貴重な財源となっています。

いろいろな活動を通して、このお寺を地域にとけこんだ場所にしていきたいと思って会員を続けています。

個人会員　藤澤 克己さん（安楽寺 住職）

自殺防止の相談やチャイルドラインなど、人の心に寄り添う活動をきっかけに、「誰でも気軽に来られる場所として親しんでもらいたい」と思って、お寺の本堂を寺ヨガやコンサートに開放しました。他にも、「おてらおやつクラブ」という活動にも参加しています。こうした地域活動をするうえで社協とのつながりが大切だと考え、父の代から会員を続けています。

17代目としてお寺を継ぐ前は、民間企業のシステムエンジニアとして20年間勤務しました。社会人としての経験や知識は、今も役立っています。どんな経験でも、自分や地域のために動くことにつながりますね。

先代からスズムシの飼育も続けていて、この数年はコロナ禍で中止になっていますが、地域の親子を対象に「スズムシの集い」を開催しています。夏の夜にスズムシの声を聞きながら、命のはかなさや大切さを伝える催しとして大変好評です。

藤澤さん

●会員数

	平成25年度	令和4年度
個人会員	914件	684件
団体会員	121件	117件
法人会員	163件	134件
施設会員	10件	－

会員数は全体的に減少傾向です。新たな会員の獲得とともに、ご賛同いただいた区民や企業の皆さんからの財政的な支援を継続していただけるよう、地域福祉の推進を進めます。

協力者の声　～車いすステーション～

車いす貸出事業では、一時的に車いすが必要となった人に対して貸し出しを行っています。商店街・町会自治会・事業所・福祉施設等の協力を得て、車いすステーションを設置しています。

突然の怪我や通院等、お困りの時は遠慮なくお声掛けください。

令和5年（2023年）7月から子ども用の車いすの貸し出しもスタートしました。

芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

児童から高齢者まで様々な世代が集い活動する当施設において、中でも児童の怪我や体調不良者の発生件数は多く、これまでにも設置要望がありました。今回の子ども用車いすの設置はより安心して地域生活を過ごすために必要なものと感じています。事故や怪我が起きないことが大前提ですが、お子さんの怪我や通院などの緊急時に安全な移動手段として、ご活用頂きたいと思います。

●貸し出し台数・車いすステーション数

	平成25年度	令和4年度
貸し出し台数（社協）	230台	224台
貸し出し台数（ST）	238台	379台
車いすステーション数	31か所	33か所

車いすステーションでの貸し出し台数はコロナ禍で一時落ち込みましたが、増加傾向です。より便利に身近な地域で利用できるよう、車いすステーションの設置にご協力お願いします。

協力者の声　～地域貢献型自動販売機設置事業～

企業や施設、商店街等の皆さまのご協力により、自動販売機の売り上げの一部を地域福祉活動に活用させていただく「地域貢献型自動販売機」の設置を進めています。

住友金属鉱山株式会社

旧三田図書館

「せっかくなら地域支援につながるように」と地域貢献型自動販売機で積極的に購入してくれる社員もいます。

住友金属鉱山株式会社

住友金属鉱山株式会社は、鉱山開発・運営や採掘した鉱物資源を活用した製錬事業、材料事業を行っています。当社の鉱山事業は、資源のあるところでしか仕事ができません。そのため当社には昔から、「地域と共存する」という考え方があり、各拠点で地域支援を積極的に行っています。港区では本社オフィスリニューアルをきっかけに地域貢献型自動販売機を設置しました。他の自動販売機と商品の価格は同じに設定していますが、「せっかくなら地域支援につながるように」と積極的に購入している社員もいて、毎月400本程度購入されています。みなとネット(P.19)や災害時の新橋駅周辺帰宅困難者向けの水や食料などの備蓄などに協力していますが、ほかにもできる地域支援はないか検討中です。

●自動販売機設置台数

令和2年度	令和4年度
1台	6台

ご自宅・アパート・マンションの敷地の一角や、店舗・駐車場などの空きスペースを、自動販売機の設置場所としてご提供くださる方を募集しています！

寄付者の声　～寄付制度～

皆様からの寄付金は、地域福祉活動を推進するうえで、大きな支えとなっています。クレジットカードからの寄付や港区版ふるさと納税制度による「団体応援寄付」もできますので、ぜひあたたかいご支援をお願いします。

港社協のボランティアセンターに出入りしていた手芸好きな数名が集まって、手芸のサークルを立ち上げたのが寄付活動の始まりです。

手芸好きな方なら大歓迎です。自分の「好き」を生かしてボランティアに参加してみませんか？お気軽に見学に来てくださいね。

手芸グループあじさい

芝消防署からの依頼で、昭和61年(1986年)から浜松町駅3・4番線ホームの小便小僧の衣装を作って、毎月26日に衣装の着せ替えをしています。また、地域のイベントで手芸作品を販売して、その売り上げを港社協に寄付しています。「小僧さんの衣装を毎月楽しみにしています！」「バザーで買ったものをプレゼントしたら友達に喜ばれました」などのお声をいただき、とても励みになりますし、自分の住む地域に自分の好きな手芸で少しでも貢献できることを嬉しく思います。

今後も活動を続けられるよう新しいメンバーが増えることを願っています。

あじさいのメンバー

●寄付金収入

	平成25年度	令和4年度
一般寄付	14,818,238円	15,537,945円
指定寄付	472,600円	3,311,006円

毎月や毎年など、継続してご寄付くださる方もいらっしゃいます。イベントの売上金や香典寄付や遺贈、企業の社会貢献活動としてなど、年間を通じてご寄付いただいています。

活動者の声　～みんなと地域の福祉活動～

地域住民主体の地域の支え合いの活動で、茶話会など気軽に集まる場をつくる「サロン活動」、
緩やかに声かけ見守りを行う「声かけ見まもり活動」、町会・自治会等の「みんなの会議」の3つの活動があります。

昔から住む人だけでなく、最近引っ越してきた人が参加してくれることもあります。ほどよい距離感を保ちながら、相手のことを気にかけるようにしています。

ケープサロン・声かけ見まもり活動　平田 渥美さん

サロン・声かけ見まもり活動を始めたきっかけは、マンションに住む高齢者から、「マンション内に知り合いがいない」という声があったと管理会社から聞いたことです。当時管理組合の理事をしていたこともあり、「やってみる」と名乗り出たんです。仲間や管理会社の協力のもとサロンを始め、今では40代から100代の幅広い年齢層の参加者が集まっています。サロンに加えて声かけ見まもり活動も行い、サロン外でも声をかけあうなど住民同士のつながりが深まりました。

ケープサロンの様子

平田さん

芝浦一丁目サロン　佐藤 祥子さん・牧野 勝代さん

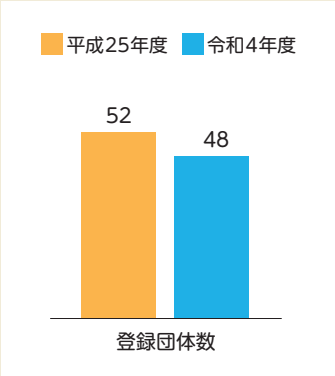
サロンは皆でやっていくもの。広げて、つなげていく。他のメンバーも気持ちよく仕事を引き受けてくれます。サロンを立ち上げた牧野さんの想いと人柄で続いてきたので、その想いを大切にしながら、私のできる範囲でつないでいきます。来る人拒まずの精神で生きてきましたので……。

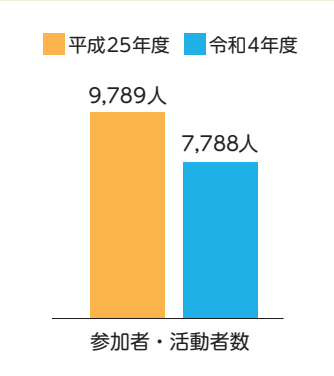
現代表の佐藤さん（写真左）と前代表の牧野さん（写真右）

佐藤さんを見て、「この人ならサロンは今後何年も安泰だ」と思ったんです。サロンをやるには人が好きでないとやれない。彼女は適任でした。

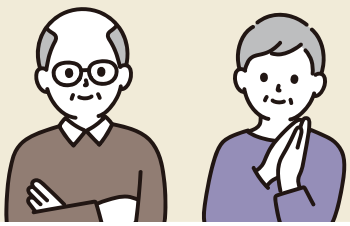
データで見る「みんなと地域の福祉活動 」（一部）

●登録団体数と参加者・活動者数（サロン・声かけ見まもり活動・みんなの会議 ）



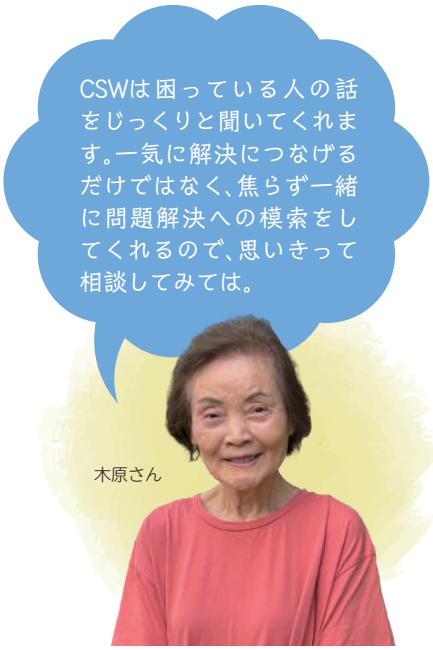


コロナ禍で活動を自粛せざるを得ない期間もありましたが、最近は回復しつつあり、新しい活動の相談も増えています！



地域住民の声　～コミュニティソーシャルワーク推進事業～

介護、育児、障害、ひきこもりなど、複数の課題を抱えてどこに相談したらいいかわからずに困っている場合や、地域に心配な人がいる場合などに課題を整理して、関係機関と連携しながら一緒に解決方法を考えます。



木原さん

知り合いが困っていたときに、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）が一緒に解決に向けて相談にのってくれました。

こいちサロン　木原 絹代さん

私は元民生委員でサロン代表として活動するなか、友人から家族関係や将来の不安について相談を受けていたのですが、「私では解決できない、どうしてあげたらいいんだろう」と悩んでいたところ、港社協のCSWから声をかけられ、友人に紹介しました。CSWは行政機関や医療機関とも違う立場で接してくれていたので、友人も穏やかになり、少し前向きになれていたようでした。

●相談内容

		令和3年度	令和4年度
相談内容	モノ・ゴミ屋敷	259件	86件
	近隣トラブル	83件	95件
	話を聞いてほしい	101件	75件
	ひきこもり	60件	86件

令和3年度はモノ・ゴミ屋敷、近隣トラブルなどの課題を複合的に抱えているケースの相談対応が多くありました。

「まず話を聞いてほしい」という相談も多いです。

推進会議委員の声　～生活支援体制整備事業～

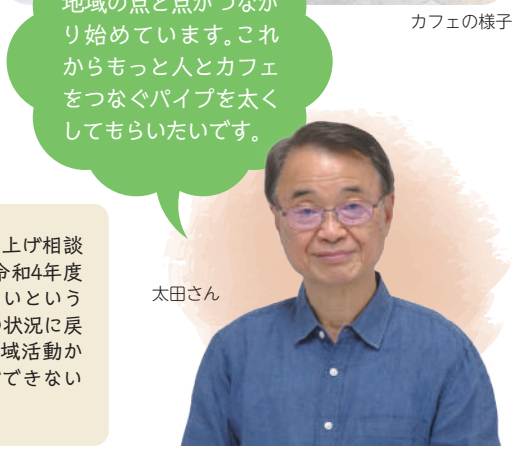
生活支援コーディネーターが、地域の高齢者の生活支援及び介護予防サービスの充実を図るとともに、地域における支え合いの体制づくりを推進します。

平成29年度（2017年度）の生活支援体制整備事業開始当初から、チャレンジコミュニティ・クラブ（CCクラブ）として推進会議に参画しています。

チャレンジコミュニティ・クラブ　太田 則義さん

生活支援体制整備の事業推進会議で高輪地区CCクラブで行っているコミュニティカフェの報告をし、「居場所はつくれるが、地域の人に周知するのには限界がある」と話したところ、関係機関からチラシの配布やイベントでの紹介を提案していただきました。そこからカフェの案内を増やして、地域の人に活動を知っていただけるチャンスが広がっています。私たちの活動をこれまで知らなかった人にもつながることができました。

カフェの様子



太田さん

●コーディネーターの活動

		平成29年度	令和4年度
活動実績	活動立ち上げの相談	162件	178件
	地域情報交換・支援等	75件	182件
	関係機関との連携	67件	144件

コロナ禍の影響で活動立ち上げ相談は大きく減少しましたが、令和4年度には再び活動を立ち上げたいという相談が多く寄せられ、以前の状況に戻りつつあります。一方で、地域活動から離れて戻ってくることができない高齢者もいます。

（団体）　（個人）

ボランティア活動者の声　～ボランティア活動推進事業～

ボランティアは自分の関心のあるテーマ、自分にできることからはじめられるとても身近な活動です。
ボランティア活動は、地域や社会をより良くしていくことに役立つとともに、活動する自分自身も豊かになります。

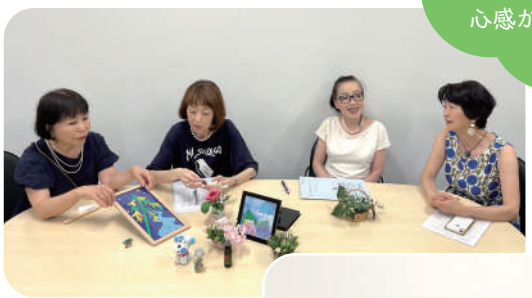
◆ボランティア（団体）

活動を始めたきっかけは、母の病床に付き添えなかったことの後悔から、自宅近くの高齢者施設で美容ボランティアを始めたことでした。

これからボランティア活動を始めたいと思っている方は、まず港社協に相談してもらいたいです。活動したい想いを一緒に考えてくれるので一人よりとても安心感がありますよ。

認定NPO法人 プラチナ美容塾のみなさん

今年で法人化して10年が経ちます。活動開始当時に港社協が相談にのってくれて、活動場所の支援もしてくれたことにとても感謝しています。港社協が私たちを育ててくれて、ともにこの10年を歩んでくれたと思っています。今も芝浦港南地区ボランティアコーナーを拠点として利用させてもらって、他の団体の皆さんの活動の様子も知れて、つながりをもてることがとても良いことだなと感じています。



●団体登録数

平成25年度	令和4年度
87件	95件

コロナ禍の影響により登録団体数の減少がありましたが、団体の活動も再開しています。ボランティア活動を通じて地域貢献したい団体はぜひお問い合わせください。

ボランティアをしてよかったことは、地域での活動をきっかけに、子どもたちから自然に挨拶され、頼りにされることです！

佐藤さん（写真右）
障害者のサポートや高齢者施設でのボランティア、ふれあい講習会講師など

泥谷さん（写真左）
障害者のサポートやふれあい講習会講師、小学校での写真撮影や課外活動の補助など

活動をはじめたきっかけは、定年退職後の人生を模索する中、“自分のため”からが始まりでした。

◆ボランティア（個人）

感謝されることが喜び。自分の少しの手助けが大きな喜びとなって返ってきます。

泥谷 隆史さん・佐藤 邦隆さん

ボランティア活動を通しやりがいだけでなく、たくさんの素晴らしい出会いがありました。傾聴ボランティアを始めたことで自分自身がかわり、人との関係性が好転し、家族との関係までも良くなりました。

これからボランティアをはじめる人は気負わず、少しでも自分以外の人へ関心を持って小さいことから始めることが大切です！ボランティアは、“思いやり”ではなく“想いやり”。相手に喜んでもらえる事を自発的に行った結果、相手の喜びが自分の喜びにつながる事に気付くことができます。

●個人登録数

平成25年度	令和4年度
230件	187件

平成25年度と比較すると減少傾向にあります。皆さんの「ボランティアしたい」という気持ちを応援できるようにこれからもサポートしていきます。

参加者の声　～地域福祉活動・ボランティア活動　パワーアップ塾～

基礎から専門的な内容まで地域福祉活動やボランティア活動について交流をしながら体系的に学び、活動のきっかけとなる講座です。

パワーアップ塾に参加する人たちは、年代、経験、新しく求めることが多彩で、人脈が広がりました。

パワーアップ塾修了生　的場 徳雅さん（妙善寺 住職）

お寺を地域の方のコミュニティの場として提供したいと思っていたところに、地域の方とつながることができるパワーアップ塾のチラシをみて講座に参加しました。今まで受け身で一人での活動が多かったですが、パワーアップ塾の修了生からなる団体では色々な意見や提案が出てみんなで決断しているのでシンガーソングライターからバンドに入った気分です。また活動を通して外に出たことで周りから声がかかり新たな出会いにつながることもありました。

活動に参加するときはあまり気負わないことが大切だと思います。それぞれペースやモチベーションは違いますがエンジンやブレーキは仲間がかけてくれ、自然と最後には足並みが揃っています。

これからも楽しく活動を続けていきたいです。

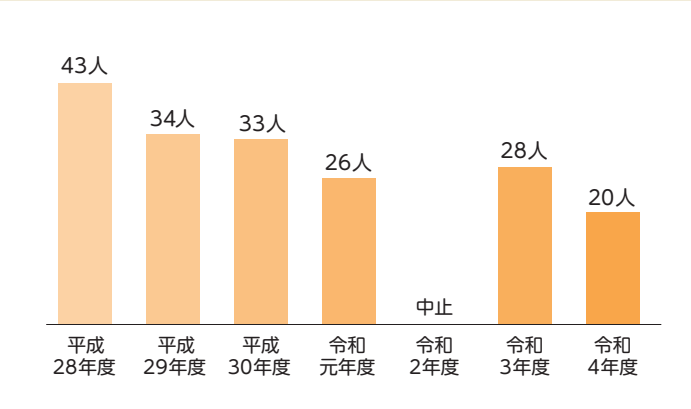
的場さん

パワーアップ塾のメンバー

お台場を歩きながら、ゴミ拾いを行いました。終了後はみんなでバーベキューを楽しみました。

データで見る「パワーアップ塾」

●パワーアップ塾参加者数



令和2年度はコロナ禍の影響で中止となりましたが、これまでに200人弱の方がパワーアップ塾を修了し地域で活躍しています！

パラスポーツメイトの声　～障害者スポーツの振興と地域福祉活動推進事業～

パラスポーツ（障害者スポーツ）を通して障害者への理解を促進し、地域福祉活動を推進する事業です。
理解促進のための講座や、広く普及啓発を図るイベントを開催しています。

港区のチャレンジコミュニティ大学に通い、地域との関わりを考えていたときに、パラスポーツメイト養成講座を知り参加しました。

ボッチャ交流大会

パラスポーツメイト　久我 英二さん

　パラスポーツの基本やボッチャなどを学ぶ中で、パラスポーツは工夫次第で誰でも参加できるということを実感しました。
　修了後は、港社協のパラスポーツ体験会や地域のプレーパークでのボランティア活動に参加しました。プレーパークでは小石や新聞紙などのその場にあるものを使ってボールを作り、アレンジしたボッチャを楽しんでもらいました。子どもたちに「障害のある人のスポーツ」ではなく「誰もが一緒に楽しめるスポーツ」としてボッチャを知ってもらえたことが良かったです。

スポーツも地域も、「支える側」「支えられる側」と分けずにみんなが周りの人に関心を持って、自分にできることをするのが大切だと思います。

久我さん

●パラスポーツメイト修了生・ボッチャ交流大会参加者数

	令和4年度
パラスポーツメイト（養成講座修了生）	21人
ボッチャ交流大会参加者	82人

記念すべき第1回のボッチャ交流大会では、年齢や障害の有無に関わらず、試合や応援をとおして楽しく交流しました。

ボランティア講師の声　～ふれあい講習会～

障害のある人のお話や各種体験（車いす、視覚障害者・ガイドヘルプ体験、高齢者疑似体験等）を通して障害のある人や高齢者の気持ちや接し方を学び、理解を深める講習会を開催しています。

声をかけることが当たり前になるよう、活動を続けていきたいと思います。

区内中学校で車いすの使い方を教えている様子

ふれあい講習会講師　豊田 晴彦さん

　福祉学習の一環として学校に伺うことが多いですが、港区の子どもたちは礼儀正しく真剣に取り組んでくれます。ふれあい講習会を受けた子どもたちはきっと学んだことをいかして障害のある人や高齢者など地域で困っている人を見かけたら声をかけてくれると思います。「結構です」と返されることもありますが、嫌な気持ちになる人はいないので、普段友達に電話でもかけるように「もしもし」そして「何かお手伝いしましょうか？」と声をかけることが当たり前になることを願って、これからも活動していきたいと思います。

共により良く生きることができる港区を一緒につくりましょう！！

豊田さん

●ふれあい講習会依頼件数

平成25年度	令和4年度
21件	12件

区内小学校・中学校・高校・企業等で実施しています。コロナ禍で減少傾向にあります。たくさんの方に体験していただけるようにこれからも周知していきます。

協力会員の声　～おむすびサービス（有償在宅福祉サービス事業）～

日常生活を営む上で支援を必要とする人（利用会員）と支援できる人（協力会員）をむすび、
地域で住民相互の助け合いを推進する会員制の事業です。

自分のできることで助かる人がいて、新しいつながりができました。

協力会員　池田 悠子さん

阪神・淡路大震災発生当時、心に傷を負った人々のケアができればという思いから、メンタルケアスペシャリストの資格を取得しました。この資格をぜひ活かしたいと、おむすびサービスの協力会員に登録したことが、はじめたきっかけでした。利用会員さんのご要望にお応えできた時は、協力させていただいて良かったと感じ、次回の活動の励みにもなります。

池田さん（写真左）と利用会員の赤羽さん（写真右）

いつも親身になって自然にサポートしてくださるのでとても助かっています。本当にありがたいです。

●依頼内容

	平成25年度	令和4年度
食事の支度	131件	112件
掃除・整理整頓	449件	291件
外出介助	321件	111件
精神的援助（話し相手）	460件	3件

外出介助や話し相手等の活動は、コロナ禍で激減しました。特に話し相手は施設での活動がなくなったこともあり、減少が顕著でしたが、今後は依頼も増えてくると思います。

この10年の間に、おためしサービスを新たに始めました。会員になって継続的に利用する前にお試しで利用できる仕組みです。

協力会員の声　～育児サポート子むすび～

子育ての手助けが必要な人（利用会員）と手助けができる人（協力会員）をむすび、地域全体で子どもの成長を支えていく育児サポート事業です。

子むすびは世代を越えてつながるとても素敵な活動です。今後も広まってほしいです。

協力会員　佐藤 一恵さん

子育ても一段落し、何か始めたいと思い、子どもが好きなので子むすびを始めました。子どもの成長を感じた時に嬉しくなり、また感謝されるとやっていてよかったと思えます。子どもとの会話も楽しく、気持ちを知ることができるため、孫に「気持ちを分かってくれる」と言われることも増えました。子ども一人ひとりに個性があり、やりがいや楽しさのある活動ですので、ぜひ、はじめて欲しいです。

活動中の様子

佐藤さん

子どもにとっても親以外にも何でも話せる方がいることが心強く、子育ての面でとても助かっています。

利用会員の声

●会員数

	平成25年度	令和4年度
利用会員	1,595人	746人
協力会員	218人	122人
両方会員	36人	8人

この10年の間に、子むすびの会員数は全体的に減少しています。コロナ禍の影響がうすれ人々が活発に活動するようになるにつれ、依頼件数の増加が見込まれます。

社会貢献型後見人の声　～成年後見制度利用促進事業～

成年後見制度の利用が必要な人が適切に利用できるよう、制度の説明や申立て手続きの支援をしています。また、地域の支えあいとして、身近な立場で成年後見活動を行う社会貢献型後見人等を養成し、サポートしています。

思いを汲み取り、代弁することで被後見人の生活が少しでも豊かなものになればと思っています。

社会貢献型後見人　木村 信孝さん

港区に住むようになって、自分の生活が充実していて、そんな時に、誰かに対して“幸せのおすそわけ”が出来ればと思ったのがきっかけです。

仕事が忙しく、自分の両親の最期を十分に看取ることができなかったこともあって、その思いを被後見人へのサポートに向けることができればと思いました。被後見人に面会に行くと、喜んでくれて、その“笑顔”にやりがいを感じます。思いを汲み取り、代弁することで被後見人の生活が少しでも豊かなものになればと思っています。

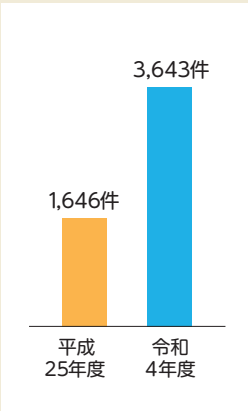
監督人として、港社協がついているので、悩み迷った時に、相談できることは心強く、大きな心配もなく日々の活動が出来ています。

利用者の山田さん(写真左) と木村さん(写真右)

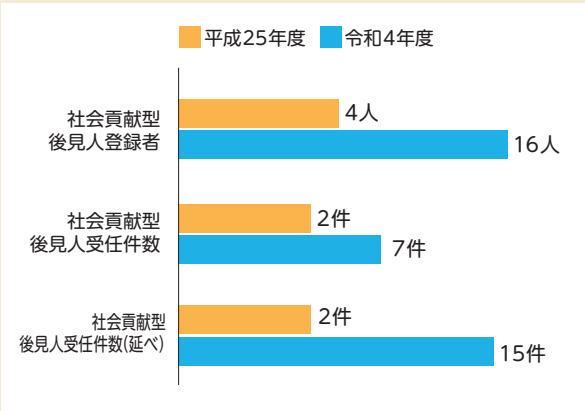
木村さん

データで見る「成年後見制度利用促進事業」(一部)

●成年後見一般相談件数



●社会貢献型後見人登録者・受任件数・延べ受任件数



社会的ニーズやサービスの認知度が高まり、相談件数が10年で約2倍、社会貢献型後見人登録者数が4倍になりました。受任件数ものびています。

登録型生活支援員の声　～総合的な福祉サービス利用援助事業～

福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理、大切な書類などの預かりを行い、地域で安心した生活が送れるよう、港社協職員や研修を積んだ区民(登録型生活支援員)がお手伝いします。

人生の先輩である利用者さんから学ばせていただくことがたくさんあり、支援時間はとても充実しています。

登録型生活支援員　武井 初美さん

現在、会社を経営していて、役員の中に看護や介護に携わる人が多く、昨今の認知症高齢者や孤独死の増加問題に対して、真剣に向き合おうと思ったのがきっかけでした。何か自分にできる事がないか模索している中で“社会貢献型後見人等候補者養成基礎講習”の案内を見て、挑戦しようと思いました。利用者さんとの会話が楽しく、人生の先輩でもある利用者さんから学ばせていただく事がたくさんあり、支援時間はとても充実しています。

きっとこのサービスを必要とする人がもっといるはず。制度やサービスの認知度が高まるよう、私も情報発信し、広げていきたいです。

郵便物の中にあった、福祉関係の書類手続きのお手伝い

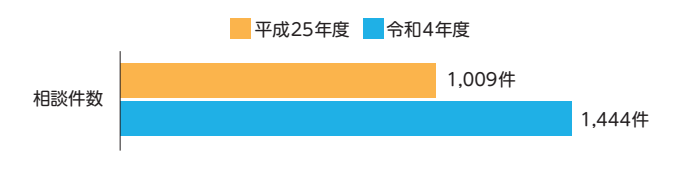
武井さんが来てくれると部屋の雰囲気が明るくなり、気持ちも元気になります。一人ではできない書類の手続きを一緒に確認し合ったり、金銭管理してくれたりするのは大変ありがたいです！

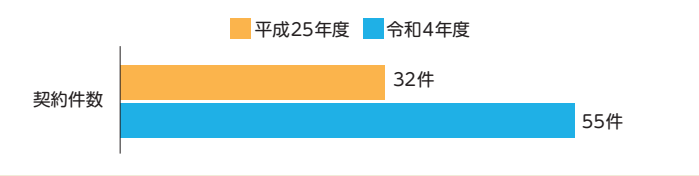
生活支援員の活動は、人生や仕事に活かせる学びがあります！

利用者の岡本さん(写真左) と武井さん(写真右)

データで見る「総合的な福祉サービス利用援助事業」(一部)

●総合的な福祉サービス利用援助事業 相談件数・契約件数





相談件数の増加とともに利用者の契約件数が10年で1.7倍増加しています。今後も相談及び契約件数の増加が見込まれるため、港社協と一緒に利用者さんと向き合える支援員が増えると嬉しいです。

介護相談員の声　～介護相談員派遣等事業～

介護保険サービスのより一層の向上を目的として、介護相談員が施設へ訪問し、利用者の声を聴き、事業者や港区へ届けています。利用されている皆さんが快適に過ごせるよう、サービスの向上を目指しています。

利用されている皆さんからは「話を聴いてほしい」「また、待っているね」と言ってもらえるほどになりました。

介護相談員　廣瀬 孝子さん

高齢者の支援に携われる活動を探していて、介護相談員の活動を知り応募したのがきっかけで、数えてみたら今年で21年目になります。

活動を始めた当初は、なかなか相談員が定着せず大変でしたが、仲間の励ましもあり続けてこられました。また、介護相談員のことが普及しておらず、施設職員や利用者さんから理解を得られなかったり、誤解されたりすることもありましたが、続けるうちに利用者さん、施設職員からも信頼されるようになりました。

鈴木さん

「話すこと」や「話を聴くこと」って、大事ですね！

廣瀬さん

●相談内容

	平成25年度	令和4年度
問合せ・相談、要望、不満	287件	31件
好意的意見	593件	40件
介護相談員の気づき	1,739件	105件
その他	277件	75件

コロナ禍を経て、令和4年度から活動を再開しましたが、制限を設けながらになるため活動件数などは大きく減少しました。しかし、日に日に活動を再開、新規開始する施設が増えています。

手話通訳者の声　～手話通訳者派遣事業～

聴覚障害者等に手話通訳者を派遣し、日常生活の利便と社会参加を促進することを目的としています。

手話の魅力を知り、きこえない人やきこえないことについて理解を深めたい。

港区登録手話通訳者のみなさん

私たち手話通訳者は、きこえない人がきこえる人と同じように情報を得られるよう、また、きこえない人が自主的に社会参加できるために活動をしています。

令和元年(2019年)に「港区手話言語の理解の促進及び障害者の多様な意思疎通手段の利用の促進に関する条例(手話言語条例)」が制定されました。このことによって、聴覚に障害がある人への理解や、手話言語がコミュニケーションツールの1つであるという認識が広がる環境が整備されてきて、私たちの活動も多岐にわたっています。通訳として関わった人たちからの感謝の言葉を原動力に、手話通訳技術や手話通訳実践技術の研鑽を忘れず、今後も活動を続けていきます。

港区登録手話通訳者のみなさん

●手話通訳者派遣

	平成25年度	令和4年度
登録手話通訳者数	24人	27人
利用登録者等派遣回数	264回	345回
行政等派遣回数	71回	264回

令和元年12月の「手話言語条例」の制定をきっかけに、港区が主催する会議やイベントを中心に手話通訳者の派遣・配置が進んでいます。

社会福祉法人の声　～港区社会福祉法人連絡会～

港区内に事業所や本部がある社会福祉法人が連携し、地域における福祉の充実に向けた様々な取組や情報共有等を行っています。

社会福祉法人は専門職集団。法人同士がつながり連携することで、地域のための新たな取組が生まれます。

令和4年度は「子ども食堂・フードパントリー応援企画」を実施。地域の皆さんから募集した食品を子ども食堂等にお渡ししました！

社会福祉法人奉優会　白金の森　施設長　成田 寛一郎さん

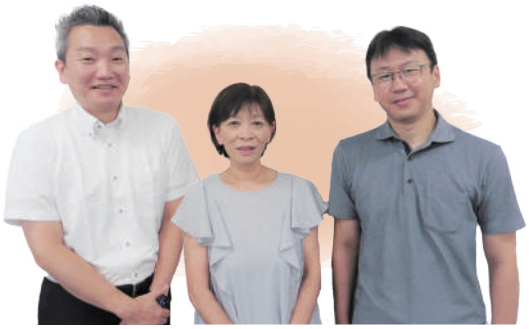
社会福祉法人に求められる役割は複雑になっています。今ある課題だけでなく起きる前の課題など、一法人だけでは大変なことでも、社会福祉法人が連携することでより活発に取り組んでいけると思っています。

社会福祉法人東京聖ビンセンシオ・ア・パウロ会　愛星保育園　園長　村岡 恵美子さん

連絡会には様々な分野の社会福祉法人が参加しているので、専門分野以外の情報や取組を知ることができます。また、それを子どもたちの保育や地域に向けた園の取組に活かすなど、良い効果が生まれています。

社会福祉法人長岡福祉協会　首都圏事業部長　竹之内 隆明さん

社会福祉法人は、公的な制度では対応しきれないことに取り組んでいくことも必要です。社会福祉法人が連携して取組を進めることで、地域の皆さんが「港区に暮らしていてよかった」と思える一助になると良いと考えています。


写真左から、成田さん、村岡さん、竹之内さん

●連絡会参加法人数

平成29年度	令和4年度
23法人	28法人

連絡会には、高齢や障害、子どもなど、様々な分野の社会福祉法人が参加しています。

会員企業の声　～みなとネット～

みなとネットは、現在区内の企業17社と港社協が会員としてネットワークを形成し、社会貢献活動やSDGsの理解促進に取り組んでいます。

隔月の定例会や年1回のイベントなど会員同士の交流や情報共有等を行い、地域社会での社会貢献活動の幅を広げています。

住友金属鉱山株式会社　元木 秀樹さん

令和3年(2021年)にNECさんに紹介してもらってみなとネットに加入しました。

当時、会社の社会貢献活動のキーワードは「地域との対話」でしたが、なかなかできていなかったんです。港社協が窓口になって関係機関とつながることができ、スムーズに活動がすすめられました。

NEC　池田 俊一さん

今後、みなとネットで、参加企業同士の連携や協働がさらにできると良いと思います。また定例会はオンラインではなく直接、また色々な企業を会場にして開かれると良いですね。

コロナ禍でオンラインでのつながりがメインでしたが、今後はもっと活発な情報交換等ができると良いと思います。

様々な人や機関と関係を持つきっかけが生まれる。みなとネットはいいことずくめです。

池田さん

元木さん

●会員企業数

平成25年度	令和4年度
26社	14社

会員企業はコロナ禍で減少しましたが、社会貢献活動の問い合わせも徐々に増え、回復傾向です。

創立70周年記念事業 寄付者ご芳名一覧

敬称略、受領順（令和5年10月25日現在）

新橋七丁目町会
新橋二丁目烏森町会
新橋一丁目西部町会
港区保護司会
一般社団法人東京都港区医師会
出野　泰正
ニュー新橋ビル自治会
ニュー新橋ビル商店連合会
会長　長尾　哲治
新橋五丁目町会
植木　裕
はまだ社会保険労務士事務所
仲笄町会
古橋　義弘
古庄　一子
定方　義和
新橋五・六丁目町会
新橋露月町会

山下　興一郎
豊田　晴彦
三軒家会町会
公益社団法人
東京都港区麻布赤坂歯科医師会
小林　和子
公益社団法人
東京都宅地建物取引業協会 第六ブロック
（港区・東京都島嶼部）
ブロック長　三ッ石　孝司
赤枝六本木診療所
院長　赤枝　恒雄
芝和城会
第一・三光町会
西新橋二丁目南桜町会
しば胃腸こうもんクリニック
院長　佐藤　幸宏
赤坂八丁目町会
赤坂表一二町会

うたの＆さんご
赤坂新三町会
青山三・四丁目町会
ハリウッド株式会社
芝浜四町会
高輪北町親和会
虎ノ門二丁目明舟町会
堀　信子
南青山一丁目町会
宇都宮　和美
公益社団法人芝法人会
白金台三光第八町会
住友金属鉱山株式会社
虎ノ門三丁目巴町会
芝西応寺町会
髙取　良雄
港区商店街連合会
その他　匿名　12件

歴代会長

黒川　武雄
（昭和29年～昭和50年）

小田　清一
（昭和50年～昭和55年）

鈴木　左門
（昭和55年～平成6年）

青木　晟
（平成6年～平成12年）

荒木　敬正
（平成12年～平成20年）

川端　庄造
（平成20年～平成24年）

柴山　義光
（平成24年～令和4年）

歴代役員名簿 過去10年間（平成25年4月1日～）

役　職	氏　名	任　期
名誉会長	武井　雅昭	平成18年～
会　長	柴山　義光	平成24年～令和4年
	須永　達雄	令和4年～
副会長	山下　一平	平成20年～平成25年
	古橋　義弘	平成23年～平成28年
	須永　達雄	平成26年～令和4年
	野尻　三重子	平成29年～令和4年
	田中　泉	令和4年～
	野尻　三重子	令和5年～
常務理事	大木　進	平成21年～平成26年
	家入　数彦	平成26年～平成30年
	奥野　佳宏	平成30年～
会計理事	髙取　良雄	平成24年～
理　事	須永　達雄	平成19年～平成26年
	熊田　ちづ子	平成23年～平成29年
	ゆうき　くみこ	平成29年～令和元年
	中前　由紀	令和元年～令和3年
	杉浦　のりお	令和3年～令和5年
	山野井　毅	令和5年～
	小島　洋祐	平成25年～平成26年
	綱川　智久	平成26年～平成27年
	澤　孝一郎	平成27年～平成28年
	小島　洋祐	平成28年～令和元年
	田谷　克裕	令和元年～
	金井　泰子	平成21年～平成27年
	鈴木　克明	平成27年～令和元年
	出野　泰正	令和元年～

役　職	氏　名	任　期
理　事	堀　信子	平成26年～
	野尻　三重子	平成21年～平成29年
	伊藤　孝昭	令和4年～
	土井　孝	平成13年～平成28年
	梅澤　和子	平成28年～令和元年
	谷　孝子	令和元年～令和4年
	田中　泉	令和4年～令和4年
	山本　久美子	平成22年～平成28年
	椢川　とし子	平成28年～令和4年
	小田切　恵子	令和4年～
	西　清子	平成22年～令和4年
	小林　百合子	令和4年～
	藤田　純子	平成24年～令和4年
	古角　佐知子	令和4年～
	泥谷　隆史	平成14年～
	渡邊　正信	平成24年～平成25年
	益口　清美	平成25年～平成27年
	青木　康平	平成27年～平成28年
	浦田　幹男	平成28年～平成30年
	森　信二	平成30年～令和2年
	有賀　謙二	令和2年～令和4年
	湯川　康生	令和4年～令和5年
	山本　睦美	令和5年～
監　事	岩間　貞子	平成14年～令和3年
	古橋　義弘	令和3年～
	石井　健一	平成14年～令和5年
	黒澤　薫	令和5年～

記念事業概要

❶ 創立70周年記念式典・講演会概要

（1）　日時　令和5年11月25日（土）午前10時～正午
（2）　場所　赤坂区民センター　区民ホール
（3）　式次第

第一部　記念式典

開会の辞
黙祷
会長挨拶
表彰状・感謝状の贈呈
来賓祝辞
来賓紹介

第二部　記念講演会

「誰もが大切なひとりとして自分らしく暮らせる港区へ
～発達障害のあるピアニストからのメッセージ～」
講師　野田あすか・母 恭子

❷ 表彰状及び感謝状の贈呈

1　表彰状

（1）過去10年以上継続して在職の役員及び評議員 …… 9名
（2）過去10年間で200万円以上の金品の寄付者 …… 6名
（3）その他特に功績が顕著な者 …… 3名
計18名

2　感謝状

（1）過去5年以上10年未満継続して在職の役員及び評議員 …… 13名
（2）過去10年間で100万円以上200万円未満の金品の寄付者 …… 10名
（3）過去10年以上継続の高額（1万円以上）会員 …… 70名
（4）過去10年以上継続して協力の委員・ボランティア・講師など …… 79名
（5）過去5年以上継続して在職の民生委員・児童委員 …… 83名
（6）過去3年以上継続して歳末たすけあい運動協力の町会・自治会 …… 96名
（7）その他特に功績が顕著な者 …… 10名
計361名

❸ 創立70周年記念事業実行委員会

委員長	古橋　義弘		
副委員長	髙取　良雄		
委　員	田中　　泉	出野　泰正	古角　佐知子
	齋藤　徳子	吉田　佳子	伊藤　文子
	池田　俊一	野上　　宏	奥野　佳宏

設立趣意書

港区社会福祉協議会は昭和28年10月区内有志の発起により「世間の人々の全体の幸福」という社会福祉の根本精神である温い人間愛を基調として、地域内の各行政機関、民生委員をはじめ社会福祉事業施設、町会、自治会、母の会、婦人会等の各地域諸団体の物心両面にわたる理解と援助を得て、相互の緊密な連絡を図りながら、区民の福祉増進を図るため発足し、児童福祉、身体障害者福祉、老人福祉、未亡人、遺族、留守家族、引揚者の援護、その他歳末援護、緊急援護等港区内の福祉の増進を図ってきた。

その後、社会経済情勢の推移に伴い、港区社会福祉協議会参加委員も、漸次増嵩し、その事業規模も参加行事も多数にのぼり、その運営についても、なお一層の組織の発展と事業の継続性及び安定した実施が要求されるに至り、責任の明確化と経営管理の合理化が望まれるに至った。そのためには、従来の任意団体としての港区社会福祉協議会を更に発展せしめるため社会的信用の確保をも鑑み、円滑にして責任ある業務遂行を期して、国及び都の指示にもとづき、現港区社会福祉協議会を発展的解消せしめ、社会福祉法人港区社会福祉協議会を設立するに至ったものである。

社会福祉法人港区社会福祉協議会は、地域住民の参加により、社会福祉関係の専門家と協力し、区内の社会資源を活用して、住民の社会福祉に対する組織活動を育成助長し、特に、各地におけるこどものための地域活動、としよりのための福祉活動、低所得者のための福祉活動等を重点的に実施しその他社会福祉の実践活動をすすめ、地域社会の福祉活動を中心としての連絡協議会としての役割を果すことを目的とするものである。

以上が、社会福祉法人港区社会福祉協議会の設立の趣旨であります。

昭和38年12月11日

社会福祉法人
港区社会福祉協議会　創立70周年記念誌

発行年月　令和5年(2023年)11月
編集・発行　社会福祉法人 港区社会福祉協議会
東京都港区六本木5-16-45　港区麻布地区総合支所2階
電話：03-6230-0280㈹　FAX：03-6230-0285
E-mail：info@minato-cosw.net
URL：https://minato-cosw.net/

社会福祉法人　港区社会福祉協議会

創立70周年記念誌

Minato Council of Social Welfare